

平成 16 (2004) 年度

埋蔵文化財緊急発掘調査概報

垂水遺跡

高城遺跡

吹田須恵器窯跡No.49

平成 17(2005)年3月

吹田市教育委員会

序

吹田市では、昭和49（1974）年度国庫補助事業の埋蔵文化財発掘調査以来、これまでに多くの発掘調査を実施し、先人が残した足跡の一端を明らかにしてきました。

平成16（2004）年度におきましては、国庫補助事業として3件（1月末時点）の発掘調査を実施しました。これらは、個人住宅の建築工事を契機としたもので、調査に際しましては、事業者をはじめ多くの方々のご協力を得ました。

本市教育委員会は、これからも文化財の保護に対してより良い施策をめざして取り組んでまいりますが、これも市民の皆様のご理解とご協力を頂いてこそ成し得るものであります。市民の皆様におかれましては、埋蔵文化財発掘調査をはじめとする本市の文化財保護行政に対し、今後とも深いご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成17(2005)年3月

吹田市教育委員会
教育長 椿原正道

例　　言

1. 本書は平成16（2004）年度国庫補助事業として実施した、高城遺跡、吹田須恵器窯跡No.49の緊急調査をまとめたものである。また、平成15（2003）年度に国庫補助事業として実施した、垂水遺跡、高城遺跡の調査についても併せて報告する。
2. 調査地点は次のとおりである。

[平成15（2003）年度]

垂　水　遺　跡	吹田市垂水町1-680-7
高　城　遺　跡	吹田市高城町1406-15

[平成16（2004）年度]

高　城　遺　跡	吹田市昭和町1426他〔第1期〕
高　城　遺　跡	吹田市高城町1344-7〔第2期〕
吹田須恵器窯跡No.49	吹田市藤が丘町56-28
3. 整理作業は、吹田市立博物館（吹田市岸部北4丁目10番1号）で実施し、資料の保管も同館において行っている。
4. 本文の執筆は、第1章・第2章・第3章2・3・第4章を賀納章雄、第3章1を西本安秀が行った。
5. 図中の方位は磁北を示し、標高はT.P（東京湾標準潮位）を示す。
6. 調査においては、岡田直氏、和田繁春氏、小松博昭氏、小松博康氏、金谷貞子氏、澤井周一氏、澤井恵美子氏をはじめとする多くの方々の協力を得ました。記して感謝致します。

調査参加者名簿

調査主体　吹田市教育委員会
調査指導　大阪府教育委員会文化財保護課
調査担当　吹田市教育委員会吹田市立博物館文化財保護係　西本安秀・賀納章雄
調査員　花崎晶子
調査補助員　秋山芳恵・高井明美・林裕子

目 次

第1章	平成16（2004）年度調査の契機	1
第2章	垂水遺跡の調査	2
第3章	高城遺跡の調査	3
第4章	吹田須恵器窯跡No.49の調査	10

挿 図 目 次

第1図	調査地点位置図	1
第2図	垂水遺跡調査地周辺図	2
第3図	調査区平面図	2
第4図	土層断面模式図	2
第5図	高城遺跡調査地周辺図	3
第6図	調査区平面図〔平成15（2003）年度〕	4
第7図	遺物実測図〔平成15（2003）年度〕	4
第8図	遺構平面図〔平成15（2003）年度〕	5
第9図	土層断面図〔平成15（2003）年度〕	5
第10図	調査区平面図〔第1期〕	6
第11図	土層断面図〔第1期〕	7
第12図	遺構平面図〔第1期〕	7
第13図	遺物実測図〔第1期〕	7
第14図	調査区平面図〔第2期〕	8
第15図	土層断面図〔第2期〕	9
第16図	遺構平面図〔第2期〕	9
第17図	遺物実測図〔第2期〕	9
第18図	吹田須恵器窯跡No.49調査地周辺図	10
第19図	調査区平面図	10

図版目次

- 図版1 垂水遺跡
- 図版2 高城遺跡〔平成15（2003）年度〕1
- 図版3 高城遺跡〔平成15（2003）年度〕2
- 図版4 高城遺跡〔平成15（2003）年度〕3
- 図版5 高城遺跡〔平成15（2003）年度〕4
- 図版6 高城遺跡〔平成15（2003）年度〕5
- 図版7 高城遺跡〔第1期〕1
- 図版8 高城遺跡〔第1期〕2
- 図版9 高城遺跡〔第1期〕3
- 図版10 高城遺跡〔第1期〕4
- 図版11 高城遺跡〔第2期〕1
- 図版12 高城遺跡〔第2期〕2
- 図版13 高城遺跡〔第2期〕3
- 図版14 吹田須恵器窯跡No.49 1
- 図版15 吹田須恵器窯跡No.49 2

第1章 平成16（2004）年度調査の契機

平成16（2004）年度は、高城遺跡、吹田須恵器窯跡No.49の2遺跡（1月末時点）において、個人住宅の建築工事に伴い3件の調査を実施した。

高城遺跡は、平成5（1993）年に個人住宅の建築に伴う試掘調査によって発見された遺跡である。その後、周辺での試掘調査や立会等によりその範囲が広がることが確認され、現在では高城町・昭和町にわたって展開することがわかっている。これまでの発掘調査では、主に古墳時代・平安時代～中世の遺構・遺物が確認されており、また二次的な堆積によるものであるが、旧石器（ナイフ形石器）や弥生土器なども出土している。今回の調査は、昭和町1426他〔第1期〕と高城町1344-7〔第2期〕において実施した。第1期調査地点についてはもとは高城遺跡の周辺地であり、試掘調査によって遺構・遺物の発見に至ったものである。

吹田須恵器窯跡No.49は、藤が丘町の標高35m付近にある。吹田須恵器窯跡群中の馬池支群に属し、かつて灰原の存在が確認されたというがその詳細は不明である。今回の調査は、藤が丘町56-28において実施したものである。

なお、本概報においては、平成15（2003）年度に実施した調査のうち、平成16（2004）年2月26日に実施した垂水遺跡（垂水町1-680-7）と、同年2月27日～3月2日に実施した高城遺跡（高城町1406-15）の調査報告もあわせて掲載する。



第1図 調査地点位置図 (1:40,000)

第2章 垂水遺跡の調査

1. 調査の経過

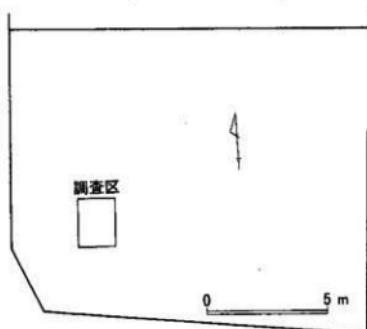
今回の調査は、住宅の建築工事に伴い実施したものであり、平成16（2004）年2月26日に、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、調査トレンチを1か所（約3m²）設定して行った。

2. 調査の成果

調査トレンチを掘削したところ、表土層以下、淡灰色砂層の堆積が認められたが、明確な遺構・遺物については確認できなかった。



第2図 垂水遺跡調査地周辺図 (1:5,000)



第3図 調査区平面図



第4図 土層断面模式図

第3章 高城遺跡の調査

1. 高城町1406-15における調査〔平成15(2003)年度〕

(1) 調査の経過

今回の調査は吹田市高城町1406-15において住宅の建築に伴う事前調査として平成16(2004)年2月27日に確認調査を実施したところ、埋蔵文化財を確認したので、引き続き調査の拡大を行い、3月2日まで調査を実施した。

(2) 調査の成果

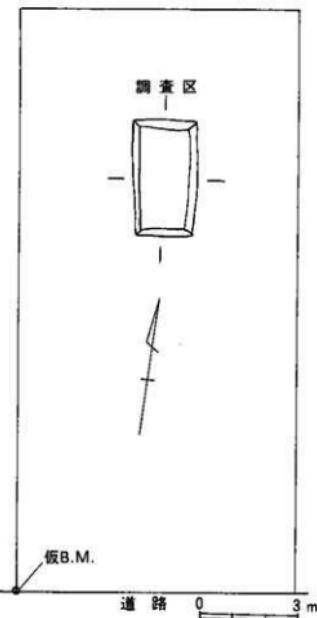
調査区1ヶ所(約7m²)を設定し、機械及び人力により掘削を行った。調査区の基本層序はI層(現代盛土)、II層(灰白色砂質土、灰色砂質土)、III層(暗褐色土、暗灰色粘質土、黒褐色粘質土、濃黒褐色粘質土、暗灰茶褐色粘質土)、IV層(濃暗灰色粘質土)、V層(暗黄褐色粘質土)である。これらの層のうち地表下約0.3mのIII層暗灰茶褐色粘質土層は今回の調査で最も多く遺物が出土した遺物包含層である。その内容は須恵器・土師器(古墳時代)、瓦質土器のそれぞれの細片で構成され、瓦質土器の出土から概ね中世の所産と考えられる。地表下約0.4m~0.5mのV層は硬質で明確な遺構面を形成していた。この遺構面で土坑2基を検出した。



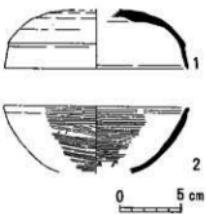
第5図 高城遺跡調査地周辺図(1:5,000)

調査区北端で検出した土坑1は部分的な検出のため、形状・規模等は明確ではないが、東西約1.3m(検出長)、南北約0.3m(検出長)、深さ約0.2mを測り、遺構内の堆積土は濃暗灰色粘質土である。堆積土からは土師器、瓦器、須恵器、黒色土器のそれぞれ細片が少量出土した。細片のため時期は明確ではないが、概ね平安時代の所産と判断される。また、土坑1内の北東隅部にピットを1基検出した。直径約0.15m、深さ約0.1mを測る。調査区の中央付近で検出した土坑2は南北長約1.2m、東西長約0.7m、深さ約0.1mを測る。平面形は不整橢円形で、底面は浅いすり鉢形を呈する。底面には顕著な凹凸はない。堆積土は黒褐色粘質土で、土師器の細片が少量出土した。土坑2は出土遺物からは時期を明確にできないが、土坑1と一連のものと考えられ、平安時代の集落跡の一部と考えられる。

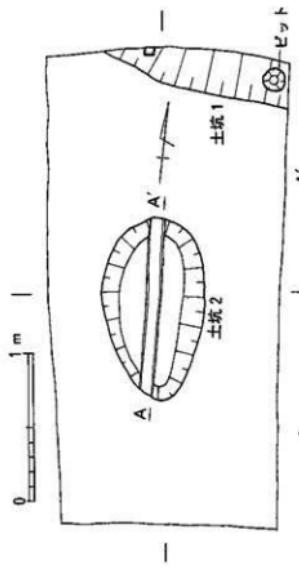
出土遺物は遺構と遺物包含層から土師器、須恵器、瓦器、黒色土器、瓦質土器等がコンテナー1箱分出土したが、ほとんどが細片であり、須恵器と瓦器の合計2点のみを図化した。(1)はⅢ層(暗灰茶褐色粘質土)出土の須恵器杯(蓋)の口縁～体部破片である。復元口径15cm、遺存高4.9cmを測る。天井部外面に回転ヘラケズリを、口縁部外面から内面天井部にかけて回転ヨコナデを施し、天井部内面にナデを施す。ロクロ回転は右回りである。外面の稜は退化し、凹線状となっている。口縁端部はやや鈍く内傾する。中村編年でII-2段階に相当する。(2)は土坑1出土の瓦器碗口縁部破片である。底部は遺存していない。復元口径15cm、遺存高5.5cmを測る。口縁部は内彎しながら外上方に伸び、口縁端部は丸い。口縁内面直下に弱い沈線を施す。内外面ともに密なヨコ方向のヘラミガキを施し、内面底部近くに螺旋状のヘラミガキを施す。樟葉型I-2期と判断される。



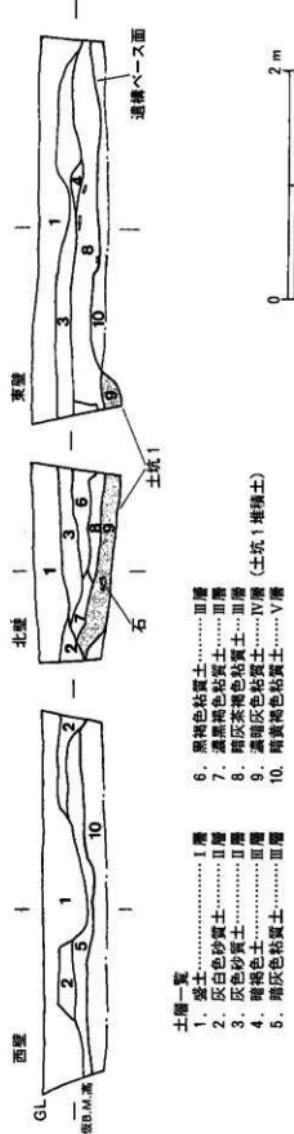
第6図 調査区平面図 [平成15(2003)年度]



第7図 遺物実測図
[平成15(2003)年度]



第8図 遺構平面図 [平成15(2003)年度]



第9図 土層断面図 [平成15(2003)年度]

2. 昭和町1426他における調査 [平成16(2004)年度・第1期]

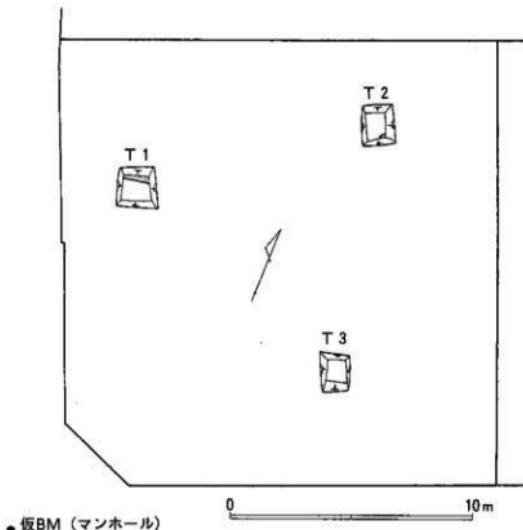
(1) 調査の経過

第1期調査は、もとは高城遺跡の周辺地であった当調査地において個人住宅の建築が計画された。これにより平成16(2004)年4月21日に試掘調査を行ったところ、遺構・遺物の包蔵が確認され、高城遺跡の範囲が当地にまで広がることが新たに判明した。このことから、その包蔵状況のさらなる確認を目的に4月23日に調査を拡大した。調査については、試掘・確認調査において計3か所の調査トレンチ(約6m²)を設定して行った。

(2) 調査の成果

調査区内の土層序は、現代盛土層(第1層)以下、灰褐色系の砂質土～粘土層(第2～6層)、暗黄褐色～橙灰色粘土層(第7層)がほぼ水平に堆積していた。このうち、灰褐色砂質土層(第4層)・灰褐色粘質土～粘土層(第5層)・暗灰褐色粘土層(第6層)内において古墳時代を中心とする遺物の包含が認められた。そして、T1とT2において第7層をベース面として遺構を検出した。

遺構についてみると、T1では東西方向にのびる溝を1条検出した。溝はトレンチの北端で検出され、その全幅は明らかでないが、深さは約25cmを測った。T2ではピットを1

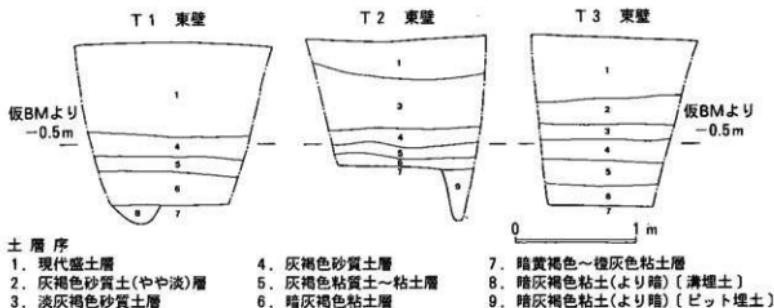


第10図 調査区平面図 [第1期]

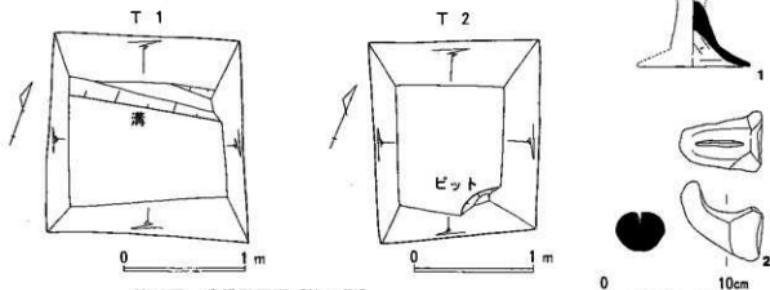
基検出した。これもトレンチ南東隅で検出したことからその全形は不明であるが、深さは約40cmを測った。

遺物については、第4～6層において古墳時代を中心とする土師器片・須恵器片の出土をみたが、第4層では中世の土師器片・瓦器片が少量混じった。またこの他に、弥生土器片も少量出土し、T1溝内からはサヌカイト片を1点検出した。これらの出土遺物はほとんどが細片であったため、図化できたものは次の2点のみであった。1は、T2ピットから出土した土師器高杯脚部である。2は、第6層出土の土師器瓶か鍋の把手である。調整はともに摩耗のため不明瞭である。

以上のように、第1期調査では、古墳時代を中心とする遺物とともに遺構が検出された。このことから、ここで検出された遺構は古墳時代、特に遺物相から古墳時代中期のものと考えられる。また、少量ではあるが、中世と弥生時代の遺物も認めることができた。高城遺跡では、これまでの調査においても中世の遺構・遺物が確認されており、今回検出されたものもそれに関連するものと考えられる。また弥生時代の遺物についても、当調査地周辺において弥生集落の存在の可能性を示すものといえる。



第11図 土層断面図〔第1期〕



第12図 遺構平面図〔第1期〕

第13図 遺物実測図〔第1期〕

3. 高城町1344-7における調査 [平成16(2004)年度・第2期]

(1) 調査の経過

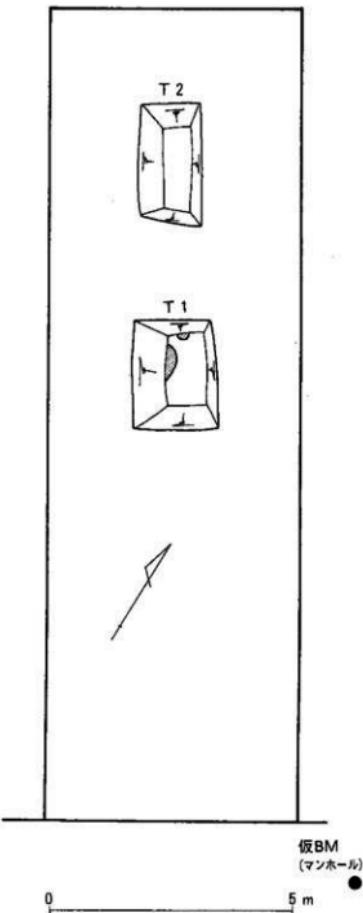
第2期調査は、個人住宅の建築工事に伴い実施したものであり、平成16(2004)年9月9日に、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、調査トレーナーを2か所(約7m²)設定して実施した。

(2) 調査の成果

調査区内の土層序は、現代盛土層(第1層)以下、淡灰色砂層(第2層)、灰色粘質土層(第3層)、青灰色粘質土層(第4層)、灰褐色砂質土～粘土層(第5～9層)、黒色粘質土～粘土層(第10～11層)、淡青灰色粘土層(第12層)の堆積が認められた。このうち、第5～9層内において中世の遺物を少量検出し、第10～11層で古墳時代の遺物が密に包含していることが確認できた。また、T1において第12層をベース面としてピットと土坑を各々1基検出した。

遺構についてみると、ピットと土坑はいずれも調査トレーナーの端にかかる形で検出された。そのため全形は明らかでないが、ピットは検出部分で最大径約25cm、深さ10cmを測った。土坑については検出部分で最大径約80cm、深さ約8cmを測った。

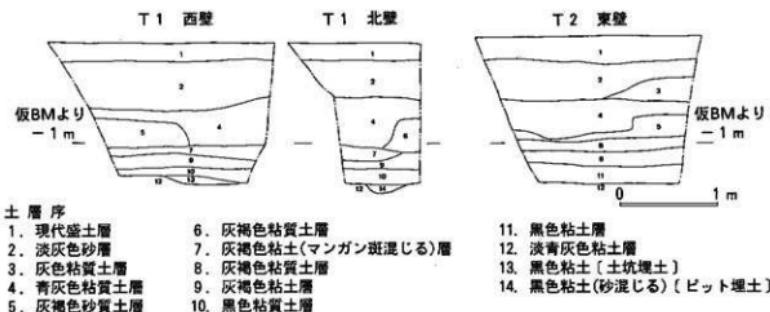
遺物についてはほとんどが細片で、図化できたものは次の3点のみであった。
1・2は、灰褐色粘土層(第9層)から出土した。1は、土師器皿である。口縁部から内面は横ナデ調整され、外面下半は押圧調整されている。2は、須恵器甕の体部片である。これについては、外面に平行タタキ痕がみられ、その内面には格子目痕がある。押さえ具に格子目のは



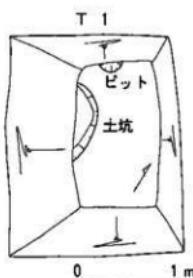
第14図 調査平面図 [第2期]

いったものを用いた例として珍しい。3は、T 2 黒色粘土層（第11層）から出土した甕と考えられる破片である。凸縁状のものが剥離した痕跡が残り、おそらく底付近の破片であると考えられる。その調整については摩耗のため不明な点も多いが、外面には平行タタキ痕が残る。この他、図化できなかったが、中世の瓦器片や土釜片、古墳時代の土師器片、弥生土器片などが出土した。また、ピット内からの遺物の出土はなかったが、土坑内において古墳時代のものと考えられる土師器の細片が検出された。

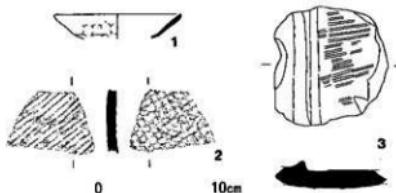
以上のように、第2期調査では中世の遺物包含層および古墳時代の遺構・遺物を検出すことができた。そして、ここでも弥生土器片を検出することができ、第1期調査と同様、調査地周辺に弥生集落存在の可能性を示す結果を得た。



第15図 土層断面図 [第2期]



第16図 遺構平面図 [第2期]



第17図 遺物実測図 [第2期]

第4章 吹田須恵器窯跡No.49の調査

1. 調査の経過

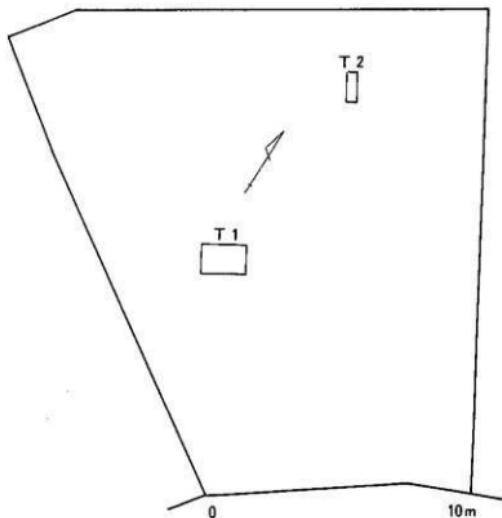
今回の調査は、個人住宅の建築工事に伴い実施したものであり、平成16（2004）年7月7日に、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、調査トレンチを2か所（約6m²）設定して行った。

2. 調査の成果

各調査トレンチを掘削したところ、T 1で地表面から約2m、T 2で約1mまでの深さまで掘削したが、現代の盛土層が認められるのみで、明確な遺構・遺物については確認できなかった。



第18図 吹田須恵器窯跡No.49調査地
周辺図(1:5,000)



第19図 調査区平面図

図版 1 垂水遺跡



調査区近景(北西から)



調査区東壁(西から)

図版2

高城遺跡〔平成15（2003）年度〕

1

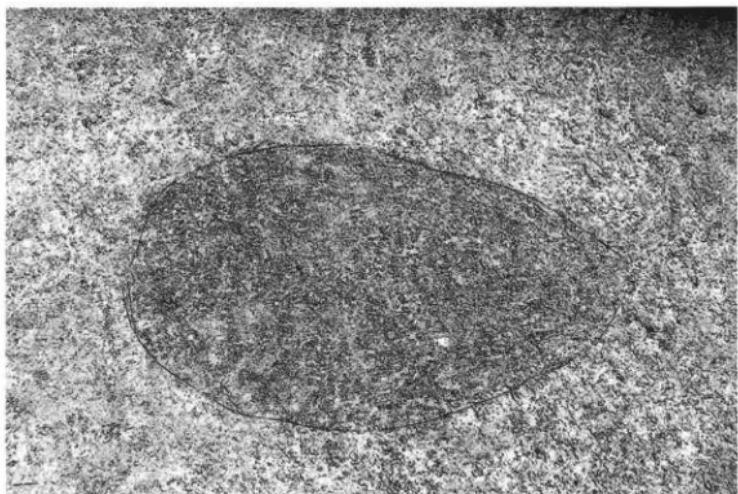


調査地近景（南西から）



遺構（上面）検出状況（南から）

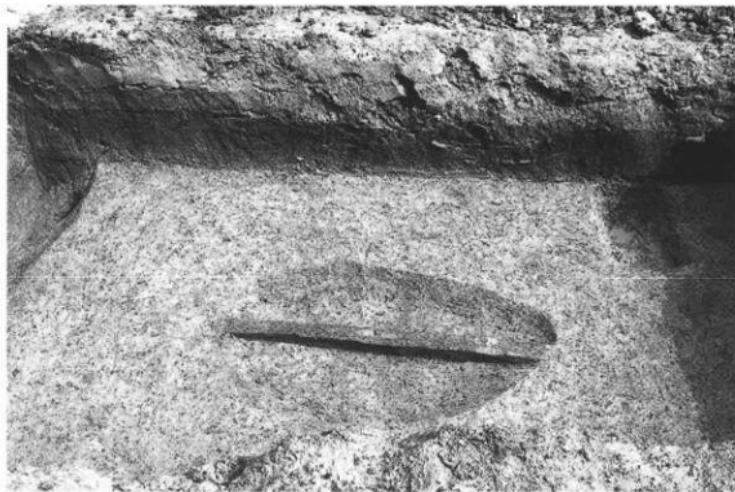
國版3 高城遺跡〔平成15(2003)年度〕2



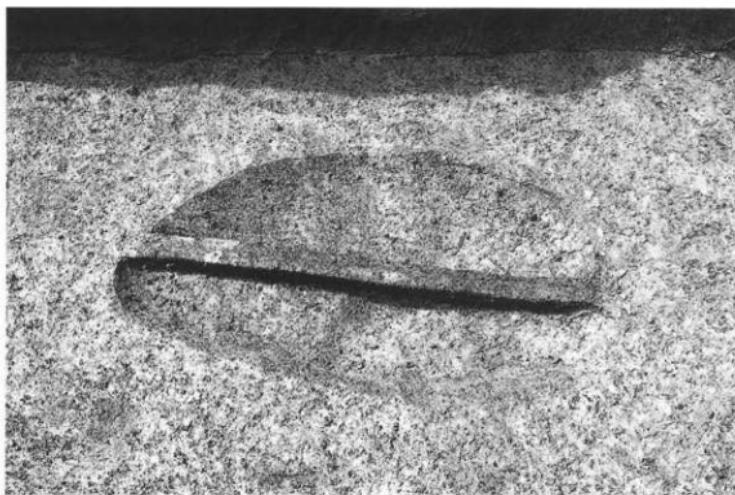
土坑2(上面)検出状況(西から)



土坑1(上面)検出状況(南から)



遺構掘削状況（西から）



土坑2（西から）

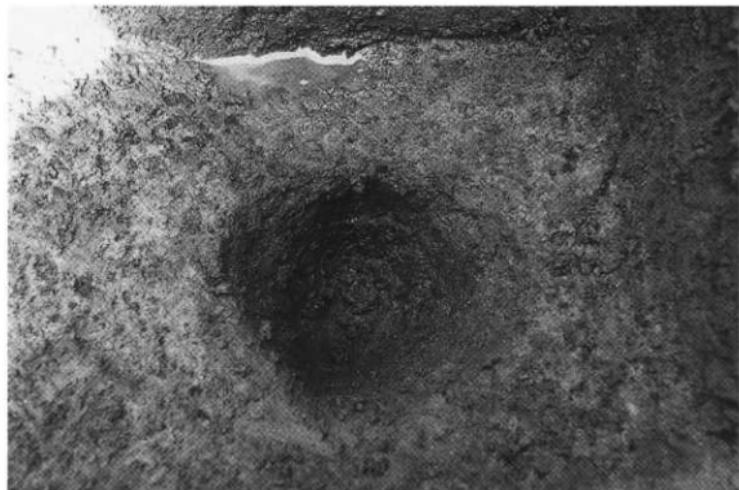


土坑2細部(南西から)



土坑1(北から)

図版 6
高城遺跡〔平成15(2003)年度〕
5



ピット(南から)



土層断面(北壁、南から)

図版 7 高城遺跡「第1期」1



T1 近景(東から)



T1 溝(東から)

図版 8

高城遺跡〔第1期〕2



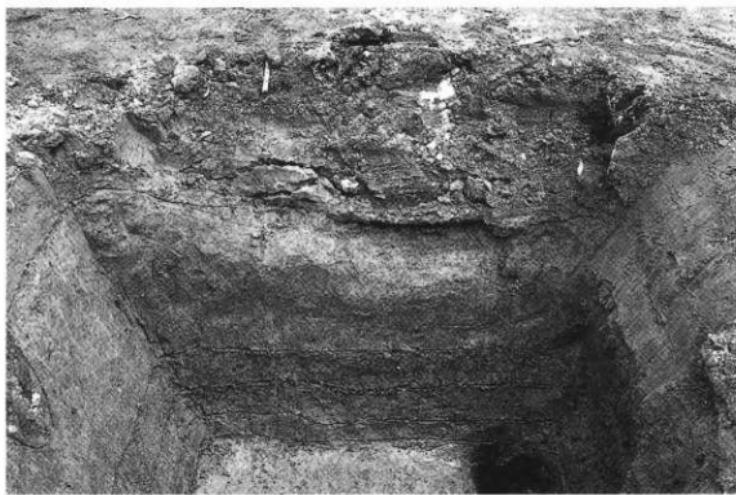
T1 東壁



T2 ピット(東から)



T2 ピット近景(西から)



T2 東壁

図版 10

高城遺跡〔第一期〕4



T3 近景(南東から)



T3 東壁



T1 近景(南から)



T1 遺構検出状況(南から)

圖版 12

高城遺跡〔第2期〕2



T1 西壁



T1 北壁



T2 近景(北東から)



T2 東壁

図版 14
吹田須恵器窯跡
No. 49

1



T1 近景(東から)



T1 掘削状況(南から)



T2 近景(西から)



T2 掘削状況(南から)

報告書抄録

ふりがな	へいせい16(2004)ねんどまいぞうぶんかざいきんきゅうはつくつちょうさがいほう
書名	平成16(2004)年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
副書名	垂水遺跡 高城遺跡 吹田須恵器窯跡No.49
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	西本安秀 賀納章雄
編集機関	吹田市教育委員会
所在地	〒564-0041 大阪府吹田市泉町1丁目3番40号 TEL(06)6384-1231
発行年月日	西暦 2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北 緯 ° ′ ″	東 緯 ° ′ ″	調査期間	調査 面積	調査 原 因
		市町村	遺跡番号					
た る み い せ き 垂 水 遺 跡	すいたしたるみちょう 吹田市垂水町1-680-7	27205	86	34° 45' 54"	135° 30' 20"	20040226	3	建物の 建築
た か し ろ い せ き 高 城 遺 跡	すいたしたかいろちょう 吹田市高城町1406-15	27205	116	34° 45' 45"	135° 31' 46"	20040227~ 20040302	7	建物の 建築
た か し ろ い せ き 高 城 遺 跡	すいたしたかいろちょう 吹田市昭和町1426他	27205	116	34° 45' 48"	135° 31' 45"	20040421 (試掘) ・ 20040423 (確認)	2 ・ 4 (確認)	建物の 建築
た か し ろ い せ き 高 城 遺 跡	すいたしたかいろちょう 吹田市高城町1344-7	27205	116	34° 45' 43"	135° 31' 44"	20040909	7	建物の 建築
すいたすきかまあと 吹田須恵器窯跡 No.49	すいたしみじ おひょう 吹田市藤が丘町56-28	27205	134	34° 46' 11"	135° 31' 25"	20040707	6	建物の 建築

所収遺跡名	種 别	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特記事項
垂 水 遺 跡	集落遺跡	弥生～中世	な し	な し	な し
高 城 遺 跡	集落遺跡	古墳・平安・ 中世	上 坑	土師器・須恵器・ 瓦器・黒色土器	な し
高 城 遺 跡	集落遺跡	古墳・平安・ 中世	溝・ピット	土師器・須恵器・ 瓦器・弥生土器・ サヌカイト	な し
高 城 遺 跡	集落遺跡	古墳・平安・ 中世	ピット・土坑	土師器・須恵器・ 瓦器・弥生土器	な し
吹田須恵器窯跡 No.49	生産遺跡	古墳	な し	な し	な し

平成16(2004)年度
埋蔵文化財緊急発掘調査概報

垂水遺跡

高城遺跡

吹田須恵器窯跡No.49

平成17(2005)年3月31日

編集 吹田市泉町1丁目3番40号
発行 吹田市教育委員会